

第4回会議の概要

令和2年度 第5回 久御山町上下水道事業経営審議会
令和3年3月17日(水)10:00～

久御山町 事業建設部 上下水道課

第4回会議での主なご質問・ご指摘事項(1/2)

No	委員質問・指摘事項要旨	審議会回答要旨	検討内容	
			趣旨	説明等
1	広報誌に市街化計画について掲載されていたが、市街化するのであれば人口も変わる。本計画ではそのことについて考慮しなくてよいのか。(P37)	現在、本町では、「みなくるタウン」として市街化計画を推進している。町の総合計画や人口ビジョンでは、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の統計よりもより現実的な数字として、みなくるタウンの住街区の人口増加も整理している。一方で、下水道事業は使用料収入を基に経営を行っているため、より厳しく人口推計を行う必要がある。本下水道ビジョンの人口推計では、町の市街化計画などの施策により社会動態の均衡は図れるものとして、社人研の複数の人口推計のうち、社会移動封鎖型の人口推計値を採用することとした。	記載内容の検討	第4章「将来の事業環境」1「将来人口の見通し」(1)「行政区域内人口の将来予測」(P37)において、市街化計画を含み「町の人口政策の推進を念頭に」と表現しているが、「みなくるタウン」という名称も含め、市街化計画について、わかりやすく明記するよう検討する。
2	みなくるタウンについては、町民に対して大々的に広報を行っているため、本下水道ビジョンでその説明がなにもなければ、疑問が生じ、整合性が得られない。(P37)			
3	市街化計画も折り込んでいるという形で言及があった方がいいかも知れない。(P37)			
4	説明を聞くと、現状の下水道使用料では将来的に厳しく、いずれ値上げが避けられないと感じる。仮に値上げした場合、上水道と合せた時に、近隣市町と比較して高い部類になると思うが、どう考えていくのか。	下水道使用料の水準については、投資試算・財源試算を示すなかで状況を見ていただけと考えている。近隣市町との比較については、現在も他市町で使用料改定の議論があり想定は難しいが、本町の下水道使用料の課題として、大口使用者に大きく依存しているという構造的な問題がある。	—	
5	一般会計繰入金について、総務省の定める繰出基準を参考にとの記載があるが、一般会計から繰入れがあれば使用料は抑えられると考えるがどうか。(P24)	現在、本町下水道事業では、単年度の資金不足をまかなうために、その不足額を一般会計から基準外繰入金として繰入れている。今後、投資試算・財源試算をご審議いただくなかで、負担のあり方についてもご議論いただきたいと考えている。	今後の予定	一般会計繰入金を含む負担のあり方については、令和2年度第5回審議会で現状や考え方を説明させていただき、令和3年度第1回審議会でご審議いただく予定としている。
6	水洗化率の見直しがあるなかで、15ページに初めて数値が出てくるが、ここにも30ページの注釈のような補記がある方が、違和感なく理解できるのではないのか。(P15)	本下水道ビジョンの巻末に、語句の説明(用語集)を入れる予定をしているが、ご指摘いただいた事項も考慮したい。	記載内容の検討	他の専門的語句の説明も含め、巻末に用語集を掲載する予定をしているが、当該ページにもわかりやすく表現できないか検討する。

第4回会議での主なご質問・ご指摘事項(2/2)

No	委員質問・指摘事項要旨	審議会回答要旨	検討内容	
			趣旨	説明等
7	選定された類似団体について、処理区域内の産業や工業も考慮されているのか。また、久御山町は大口使用者が多いという特徴的なところがあるが、それは考慮されているのか。(P29)	類似団体の選定については、経営比較分析表で分類されている類似団体から、さらに地方公営企業法の適用を受けておろかつ終末処理場を有していない団体という条件で選定している。	—	
8	将来的な収入の変化などは、大口使用者がどれだけあるのか、使用者が住民か産業的なものかということが、それなりに影響する。この類似団体と比較する意味や意義は。(P29)	選定した類似団体と比較することにより、大口使用者の排水量が多いという本町の特徴が見えてくることとなり、状況分析ができると考えている。	—	
9	住民の一番の関心は、値上げがなされるのかということ。もし、経営状況が厳しいのであれば、将来的には負担をしていただかなければならないということも、早めに示した方がよい。	—	補足説明	本審議会での審議や現在策定している下水道ビジョンを通して、経営状況も含め、周知を図っていきたい。本審議会の資料及び議事録についても、できる限り早期に町ホームページに掲載するよう努めている。
10	コロナの影響で状況が変わり得るかも知れない。将来予測は一つの仮定ということかと思うが、もし可能であれば、状況が変化した場合という形で予測に多少幅があった方がよいと感じる。(P37～45)	予測の幅については、まずは一つの推計を用いて投資試算・財源試算を議論していただき、そのなかで推計を見直す必要が生じた場合には見直すという方法を考えている。将来的な状況の変化については、下水道ビジョンは3～5年毎に見直すため、そのなかで適正化が図れると考えている。	—	
11	下水道管の位置、敷設年度、使用環境などの基本的なデータは、どのように管理しているのか。	ストックマネジメントについて、平成30年度に実施方針、令和元年度に計画を策定しており、その段階で老朽管の位置などのデータを集約している。また、併せて下水道台帳も作成しており、各路線の竣工図や汚水ますが確認でき、災害時などにも素早く管理、抽出できるようになっている。	—	